



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

「プラットホームの人」

校長 永浜 裕之

9月20日（水）を「オンライン学習デー」と定め、生徒の皆さんは自宅で一人一台端末等を用いて、Teams上のチャンネル1～チャンネル5で実施された51の授業を選択して受講しました。同時に最大5つの授業が展開されるためすべての授業を視聴することはできず、私は6つの授業を選択して視聴しました。すべての授業が科目の一部領域を深く掘り下げた工夫された内容で、大いに好奇心を刺激されました。この取組をさらに発展させられないか、思案中です。

また、夏季休業日中に「人間と社会」哲学対話が実施されました。興味深い内容でしたので、授業記録を2回分、以下にアップロードしておきます (https://www.metro.ed.jp/shinjukuyamabuki-h/pages/2023/10/freepage_5.html)。

さて今回は、令和4年度「新宿山吹だより第1号 壁を乗り越えて成長する」で紹介した、ヴァイオリニスト千住真理子さん話の続編です。

その日、私はいつものようにコンサートを終え帰宅する途中だった。いつもなら車で帰るところを、その日に限って珍しく私は電車を乗り継いで帰ることにした。

寂れた駅の夜のプラットホームには、人影が少ない。

ついさっきまでステージの上で行われていたあの空間の、張りつめていた緊張感と、千人の聴衆の拍手の音が、まだこの身体に残っている。そんな興奮状態からすぐに切り替えたいときも、しばらく余韻を楽しみたいときも、あるものだ。そのとき私は、その余韻を味わっていたかったのかもしれない。あるいは夜風に吹かれて、ややほてった身体をしずめたかったのかもしれない。

どちらにしてもはっきりした理由があって、私は電車にしたわけではない。しかし、そんな何気ないふとした選択が、生涯忘れられない出会いを生み出す場合がある。

その人は50歳代くらいのご婦人だった。隣に立っているのはご主人だろう。何か、いたわるようにされて、プラットホームで電車が来るのを待っているところのようだった。衣装ケースとヴァイオリンケース、そして演奏会でいただいた花束をひざに抱えて、私はそこにあるベンチに座った。

電車を待っていた婦人はその手に、「千住真理子、ヴァイオリン・リサイタル」と記されたプログラムを持っていた。私がベンチに座ると気付いたようにチラリとこちらを見て、隣のご主人をそっとつついて何かを話したようだった。

二人がふいにこちらを振り向き微笑んだ顔が優しく、私も笑って会釈した。その会釈につられるようにスーッとこちらにやってきて、婦人は笑顔で語り始めた。

「わたしはね、千住さん、先週、難しい手術をしましてね、死んでいたかもしれなかったんです」。「…！」

「それが奇跡的に一命をとりとめましてね。だからこんなふうに主人と二人で来られたんです。でも、本当によかった。あのね、千住さん、あなたの演奏聴いて、『神様に命を与えられてよかった』ってそう思ったんですよ。本当に、ありがとう、ありがとう……」。「そんな……」

あまりに突然の言葉に返す言葉もなく、震える心のまま、私は手を差し出していた。私たちは握手を交わした。婦人のぬくもりのある手が、強く私の手を握りしめてきた。婦人の目から流れ落ちる涙は次から次へと止めどなく、ご主人は硬く口を結んだまま言葉なく微笑んだ。私たち三人はただ見つめ合ってしきりにうなずくだけであった。

ご主人がポロリと付け加えて言った。「おまけに今日はね、私たちの結婚記念日なんですよ。」

嬉しそうな声が震えながらもはずみ、ご主人は目を真っ赤にして、わざと声を出して笑った。

二番ホームに電車が入る、というアナウンスがあると、私はかろうじて、お祝いの言葉とお礼の言葉を口にした。ほどなくして入ってきた電車に二人は乗り込み、ガラス越しに手を振った。二人の姿が見えなくなるまで、私も手を振り続けた。

ホームに一人残された私は、言いようもない感謝の思いの中で、何か神のような存在をそのとき信じることができた。

ヴァイオリニストでよかった…。生きていてよかった…。ヴァイオリンをやめずに今日まで頑張ってきて、よかった…。

こみあげてきた私の想いは、初めて出逢って、しかももう二度と会うことはないだろう、プラットホームですれ違った「あの人たち」への感謝の想いだった。神様ありがとう…。あの人たちから生きる喜びと、希望と勇気を頂きました…。

「自分の存在が誰かに必要とされているかどうか」ということは、おそらく誰しもが抱いている「恐れ」であり「願望」であると思う。人は何のために生きているのか、その答えが「自分の存在理由」によって意味づけることができるから、きっと安心できるのだ。常に、いつもそんなことを探しながら、そして確かめながら、人間は生きているのかもしれない。私はそう思う。

千住真理子「聞いてヴァイオリンの詩」

多文化共生海外派遣研修（フランス）に向けて

通信制課程 教務部 阿川 浩美

都教育委員会による「令和5年度都立高校生等海外派遣研修の実施及び参加校の募集」を受け、通信制課程では、学習支援システム「まなぶき」で広く参加希望生徒を募集しました。

【校内選考】応募者に対し「自己PRカード」に基づき「現在の学びに関する将来の目標」等を軸とした面接を行い、その後、校長を含む選考会議にて派遣予定生徒4名を決定しました。

【派遣先はフランスに決定】グローバル人材育成課に、生徒の夢や希望を盛り込んだ申込書を提出し、派遣校の決定通知を頂き、生徒も教員も感謝の気持ちで一杯になりました。

【事前課題のテーマ】9月10日の集合研修で「小学校での外国語教育の違いについて交流を通して検証」などをテーマに研究課題に取り組んでいます。

【今後の予定】10月15日集合研修、11月14日出発、11月17日ソルボンヌ大学での発表、フランスから日本にいる山吹高校の生徒とのオンラインによる情報共有等。これらの体験を通し、生徒の多文化理解や他者理解がより深まるようにしていきたい。

【フランスへ派遣される生徒】（敬称略）

北澤恵美、小島英子、小林みづほ、山本笑み

専門学科情報科全国大会報告

情報科 高橋 正憲

8月21日（月）と22日（火）に、京都コンピュータ学院を会場として、令和5年度全国専門学科情報科学研究協議会（京都大会）が開催されました。

全国専門学科研究協議会は、専門学科「情報科」を設置している全国の高等学校が毎年夏季休業中に集まり、日頃の研究成果を発表する全国大会です。今年度の生徒発表では、本校から、**情報科2部の久保さくらさん、内田優凜さん、北出董さん**が『新宿山吹高校における課題研究発表～「①Live2Dモデルで人を笑顔にする」「②ユニバーサルデザイン」～』というテーマで発表を行いました。久保さんは、Vtuberが配信で使用するキャラクターイラストのLive2Dモデルを作成し、Live2Dモデルの笑顔を通して見た人を少し幸せにしたいという思いで研究した成果を発表しました。内田さんと北出さんは、ユニバーサルデザインの研究で東京都庁に取材にした結果から作成したコラムと自分たちがユニバーサルデザインで取り組めることについて発表しました。



日本生物学オリンピック2023に参加して

通信制課程 8組 杉本 凌哉

「信じられない、通過した！」

図書館で思わず声が出そうになりました。私は7月開催の日本生物学オリンピック（以下、生オリ）の予選通過を目指し、春から生物の勉強一色の生活を送っていました。

ところが予選後の自己採点では例年のボーダーラインを下回ってしまいました。「やっぱりだめだったか。」とがっかりしつつも反面、「やっと生オリのことを忘れて他の勉強ができるぞ」と清々しい気持ちになり、翌日から毎日図書館で自習をしていました。それでもふと気になり生オリのホームページを開いてみたところ、自分の番号を見つめることができたのです。上位5%に入っていました。

生オリは主に高校生を対象に生物学の知識と思考力を競うコンテストです。本選で上位の成績を修めると国際生物学オリンピックに参加できます。私の周囲には生オリ経験者がいないため、勉強法などの情報は専ら生オリのホームページから得ました。キャンベル生物学はじめ推奨書籍を揃えて独学し、分からないところは先生に質問しました。

今年の本選は静岡大学にて、3泊4日の日程で行われました。本選では実験問題が出題されます。私は実験の経験がほぼ無いため、本選までの1ヶ月間、マイクロピペットの練習や切片作り、魚の解剖などを家で慌てて行いました。

私はクラゲの研究をしているので、クラゲの問題が出ることを期待しました。そして本番、**コオロギの解剖、カエルの胚の染色、静岡名物ワサビの酵素活性の測定、PCRのデータ分析、系統樹構築**が出題されました。自分の今の知識を使って**大学以上のレベルの問題を解くことで、高校生物が研究としての生物学にどのように接続するのか**を体感しました。

交流会では生物学に関するマニアックなゲーム大会が行われ、ここで私のクラゲの知識がやっと生かされました。他に、日本平動物園と清水港のマグロ倉庫見学や、静岡大学の研究室見学などお楽しみがありました。

本選ではメダル獲得と為りませんでした。沢山の刺激を得たことで、将来自分の取り組みを深めていくことが益々楽しみになりました。今後も生物学ならびに学業に邁進していきたいと考えています。



定時制課程 学校行事予定

- 10月6日（金）前期終業式
- 9日（月）スポーツの日
- 10日（火）期間休業
- 11日（水）期間休業
- 12日（木）期間休業
- 13日（金）後期授業開始
- 17日（火）自己探索学習⑤
- 19日（木）健康講話

通信制課程 学校行事予定

- 10月7日（土）生徒相談日
- 9日（月）スポーツの日
- 14日（土）スクーリング 2-1
- 21日（土）スクーリング 2-2
- 28日（土）スクーリング 2-3
- 11月3日（金）文化の日
- 4日（土）スクーリング 2-4
- 11日（土）スクーリング 2-5

